

F2-45

## 樹木と建物の関係性による軽井沢別荘地の景観形成についての研究

A study on the landscape formation in Karuizawa villa area by the relationship between trees and buildings

○ 石塚菜々子<sup>1</sup>, 植田奈津芽<sup>1</sup>, 氏家日花莉<sup>1</sup>, 小木曾裕<sup>2</sup>  
Nanako Ishiduka<sup>1</sup>, Natume Ueda<sup>1</sup>, Hikari Ujii<sup>1</sup>, Yutaka Kogiso<sup>2</sup>

Abstract: The roof of Hatta villa should be generally lower than under-branch.

### I. はじめに

浅間山の麓に位置する軽井沢はかつて草原であり、田畑には向かない土壌であった。その後、雨宮敬次郎をはじめとする開発事業家の人々によってカラマツ等の植林が進められた。本研究では、旧軽井沢周辺の別荘景観がいかにして形成されたのかについて、樹木と建物との関係性から捉えた形成の考察を目的とし研究を行った。

### II. 研究の方法

軽井沢別荘地の景観形成の過程について概要を把握するため、植林計画の歴史に関する文献調査、日本大学軽井沢研修所、軽井沢観光協会へのヒアリングを実施した。さらに、八田別荘(1893年建設)、室生犀星別荘(1931年建設)において建物の高さ及び敷地内樹木の樹高と枝張り、枝下、目通り等の測定を行い解析し考察を行った。

### III. 結果と考察

#### 1. 軽井沢の植林の歴史概要

1875年鳥居義処が雲場地域周辺412町歩(約408ha)を買収し、軍馬の育成や牧場・農場の開設を行った。その際、カラマツが20町歩(約20ha)にわたって植林された。1888年には、雨宮敬次郎が官有地500町歩民有地600町歩を買収し開墾、そして植林事業の計画のため17万円(約34億円)を投じた。二人をはじめとして1880年代に行われた植林は、開拓に伴う財産にすることを目的としたものであった。

一方、この地の気候に合うカラマツを植林したことにより、現在の軽井沢の風景に至る基盤が作られた。

#### 2. 八田別荘

敷地内の主木(カラマツ)11本について、現地での調査より得られた樹高、枝下の記録及び建物高さを(Figure 1.)に示す。(Figure 1.)から枝下の平均値は8.01mであることがわかる。つまり八田別荘の屋根はカラマツの枝下より概ね低いことから、樹木が植わる

先に建物が佇むという景観が形成されている。

建物の高さ(8.3m)に対し、敷地内全ての樹木の樹高が超えると共に、枝下は人の目線よりも高く位置しているため、うっそうとせず開けた空間が広がっていると推測される。

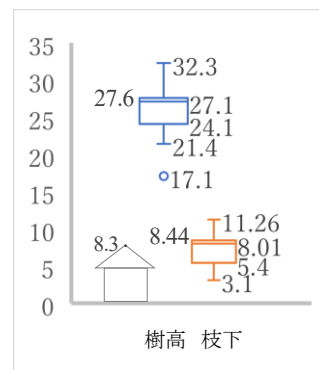


Figure2. Hatta villa

Figure1. Box and whisker of tree height and under-branch (Hattabessou)



Figure3. Murousaisei villa



Figure4. Karamatu in Hatta villa

#### 3. 室生犀星別荘

敷地境界に沿って樹木が植わっている室生犀星別荘は、コケに覆われた地面が広がっていることが特徴的である。これは落葉を収集し風通しを良くすることで、コケが育成しやすい環境が整えられているため、こうした空間が広がると考えられる。

軽井沢別荘地では落葉を掃くことで、地面がコケに覆われている姿がみられる。つまり管理が行き届いている別荘では、地被植物が広がる空間が形成される傾向にあると推測する。

参考文献, 補注

- [1] 軽井沢町資料館・追分宿郷土館 (1992): 軽井沢町資料館・追分宿郷土館 特別展「軽井沢を育てた森林の源流を探る-軽井沢植林史-」: 追分宿郷土館(長野)pp56  
[2] 軽井沢観光協会事務局長からのヒアリング (2022年9月)